

# 関東地方整備局管内の工事事故発生状況と対策について

国土交通省関東地方整備局企画部技術調査課

課長補佐 しみず のぶお  
清水 信男

## 1. はじめに

平成21年度の関東地方整備局における工事事故の発生件数は、96件となり、平成20年度に比べ9件の減少となった(図1)。しかしながら、平成21年度も引き続き死亡事故が発生するなど、きわめて憂慮すべき状況となっている。

本稿では、平成21年度の工事事故発生状況とその事故事例ならびに平成22年度の事故防止対策について紹介する。

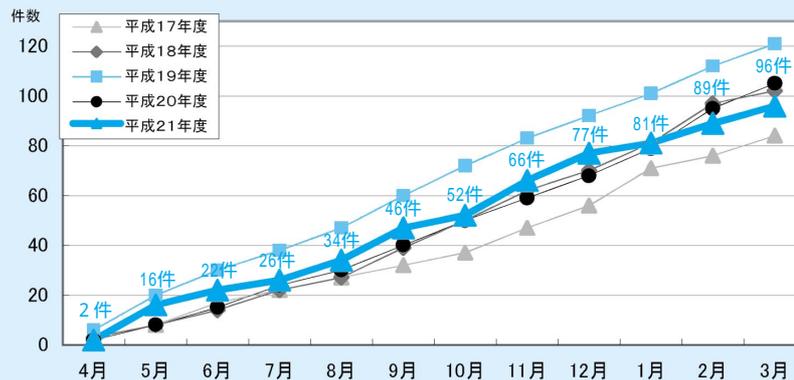
## 2. 平成21年度の工事事故発生状況

### (1) 工事事故発生件数の推移

平成20年度に比べ工事事故件数は減少し、過去5年間で2番目に少ない工事事故件数になった。また、工事発注件数も年々減少しており、平成19年度より2,000件を割り、平成21年度は約1,800件となっている。

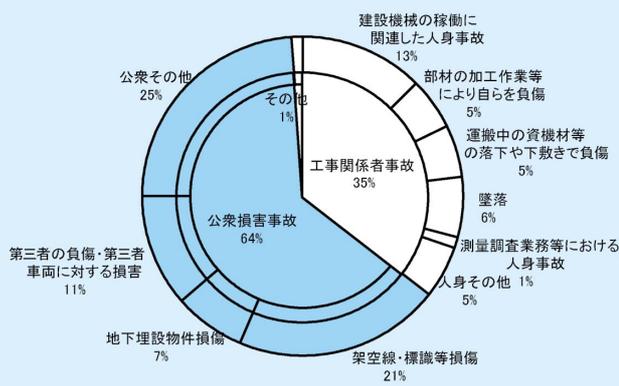
### (2) 工事事故の発生形態状況

工事事故発生形態別では、図2に示すとおり



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成17年度 累計 (月毎)	2件 (2件)	8件 (6件)	17件 (9件)	22件 (5件)	27件 (5件)	32件 (5件)	37件 (5件)	47件 (10件)	56件 (9件)	71件 (15件)	76件 (5件)	84件 (8件)
平成18年度 累計 (月毎)	3件 (3件)	8件 (5件)	14件 (6件)	22件 (8件)	27件 (5件)	39件 (12件)	50件 (11件)	62件 (12件)	70件 (8件)	81件 (11件)	97件 (16件)	102件 (5件)
平成19年度 累計 (月毎)	6件 (6件)	20件 (14件)	30件 (10件)	38件 (8件)	47件 (9件)	60件 (13件)	72件 (12件)	83件 (11件)	92件 (9件)	101件 (9件)	112件 (11件)	121件 (9件)
平成20年度 累計 (月毎)	2件 (2件)	8件 (6件)	15件 (7件)	24件 (9件)	30件 (6件)	40件 (10件)	50件 (10件)	59件 (9件)	68件 (9件)	79件 (11件)	95件 (16件)	105件 (10件)
平成21年度 累計 (月毎)	2件 (2件)	16件 (14件)	22件 (6件)	26件 (4件)	34件 (8件)	46件 (12件)	52件 (6件)	66件 (14件)	77件 (11件)	81件 (4件)	89件 (8件)	96件 (7件)

図1 工事事故発生件数の推移



事故区分	発生形態	H19	H20	H21
工事関係者事故	建設機械の稼働に関連した人身事故	11	10	12
	部材の加工作業等により自らを負傷	3	8	5
	運搬中の資機材等の落下や下敷きで負傷	6	6	5
	現道上のもらい事故	0	2	0
	第三者の不注意による事故	0	0	0
	墜落	12	11	6
	測量調査業務等における人身事故	0	0	1
	人身その他	18	10	5
小計		50	47	34
公衆損害事故	架空線・標識等損傷	24	17	20
	地下埋設物件損傷	6	8	7
	第三者の負傷・第三者車両に対する損害	19	21	11
	公衆その他	16	7	23
小計		65	53	61
その他事故	その他事故	6	5	1
計		121	105	96

平成22年度重点的安全対策

図 2 発生形態別事故件数

り、公衆損害事故が増加しており、全体の64%を占めている。公衆損害事故のうち、「架空線・標識等損傷事故」が最も多く、公衆損害事故全体の約3割(20件)を占めている。次いで「第三者に対する損害事故」が多く発生している。また、工事関係者事故では、「建設機械の稼働に関連した人身事故」が一番多く12件、次いで「墜落による事故」が6件発生した。

- ・長尺のU字溝をバックホウ(クレーン仕様)で吊り上げて移動すべきだったところを不適切な方法で行ったため。
  - ・上空支障物に対する注意喚起が不足していたため(三角旗等の未設置)。
- ③ 事故後の対策
- ・建設機械の目的外使用の禁止を徹底する。
  - ・架空線近接個所における作業方法の周知徹底を行う

### 3. 平成21年度に発生した事故事例

(1) 架空線・標識等損傷に関する事故...20件発生

#### ① 事故発生概要

バックホウのバケットにU字溝を抱えて移動した際、上空の架空線(光ケーブル)にアームが接触し、切断させた(図3, 写真1)。

#### ② 事故発生原因



写真 1

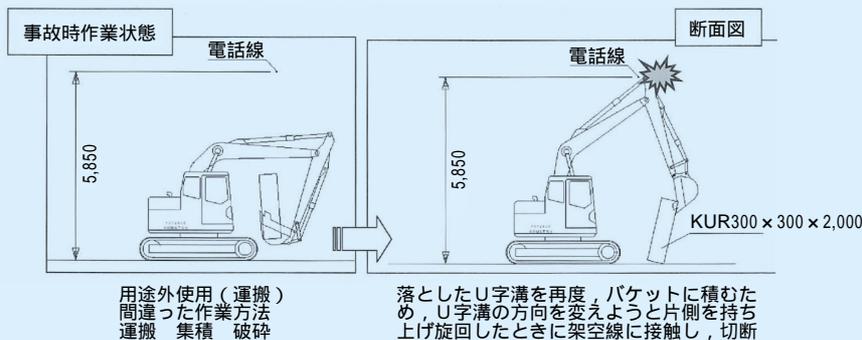


図 3

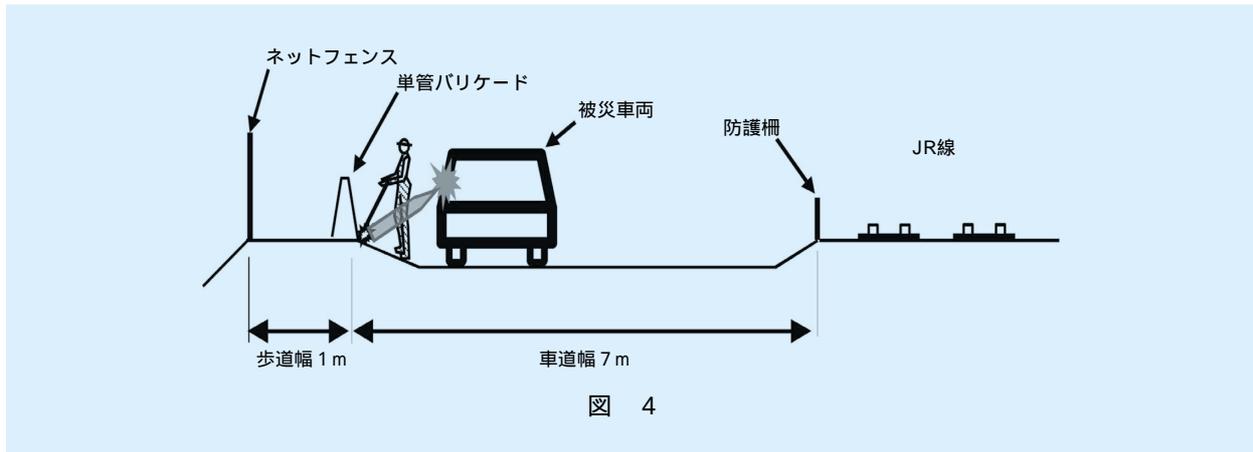


写真 2

(2) 第三者車両損傷に関する事故...11件発生

① 事故事例概要

肩掛け式草刈機を使用して除草作業を行っていたところ、刃先に小石が接触、走行中の第三者車両に飛石し、窓ガラスを損傷させた(図 4, 写真 2)。

② 事故発生原因

- ・ 第三者および第三者車両に小石などの飛散の恐れのある個所では、飛散防止用のネットなどの対策をすべきであったが、その防護を怠ったため。

③ 事故後の対策

- ・ 第三者被害の可能性がある個所においては必ず飛散防止対策を行う。
- ・ 監視員を配置し作業手順の確認を行う。

(3) 建設機械の稼働に関連した人身事故...12件発生

① 事故事例概要

草刈機を後退させた際に、反動でオペレータが機械から投げ出され、機械の下敷きになり、重傷を負った(図 5, 写真 3)。

② 事故発生原因



写真 3

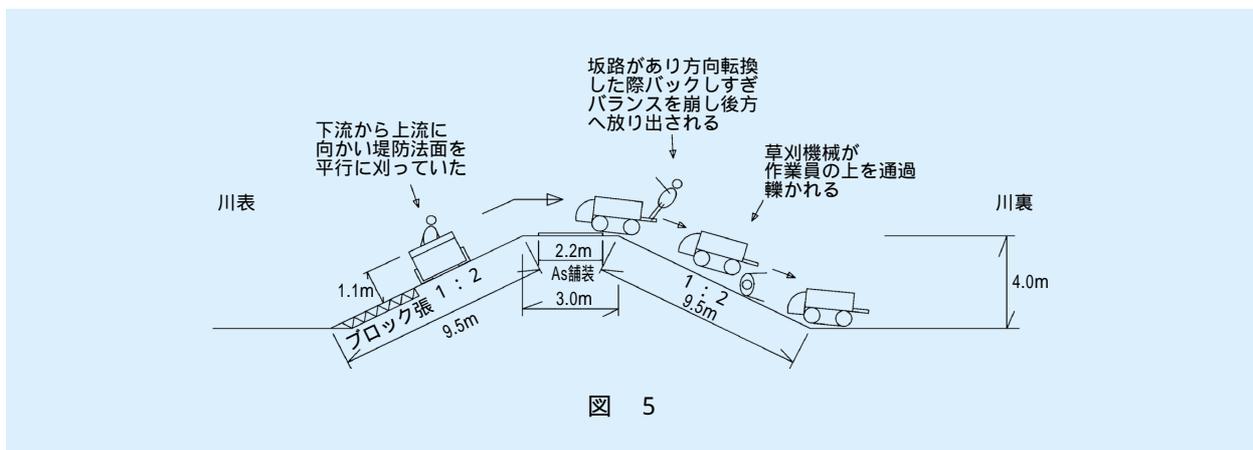




写真 4

- ・バックする際にスピードを出しすぎたため。
- ・移動時に刈刃を停止させていなかったため。

③ 事故後の対策

- ・堤防天端に上がるときは、速度を落として前進で斜めに進むようにする。
- ・移動時には刈刃を停止させる。

(4) 墜落による事故事例... 6 件発生

① 事故事例概要

樹木の剪定作業中、樹木に梯子をかけ幹にロープで固定し、さらに上方に登るため、枝に安全帯を掛け、踏みあがろうとした際に、足を掛けてい

た枝が折れて転落。さらに安全帯のフックを掛けていた枝が折れ、約 4 m の高さから地面に墜落した (写真 4)。

② 事故発生原因

高所作業における墜落防止対策が不十分であったため。

③ 事故後の対策

高所作業を行う際は現場状況を確認し、状況に応じた墜落防止対策を採用する (適切な安全帯の設置、作業床の設置)。

(5) 死亡事故

平成21年度は「運搬中の資機材等の落下や下敷きで負傷」による死亡事故が 1 件発生した。

① 事故発生概要

タワークレーンで単管パイプを橋上から地上へ荷下ろし作業中、吊荷が風で煽られてバランスを

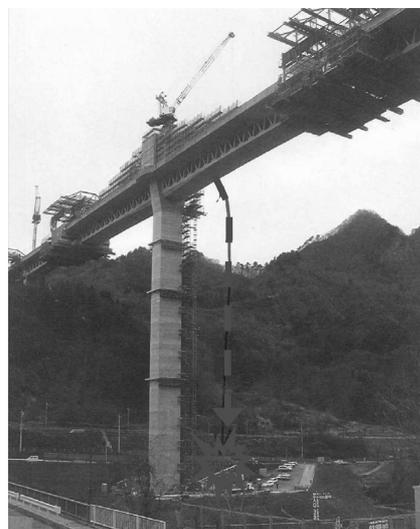
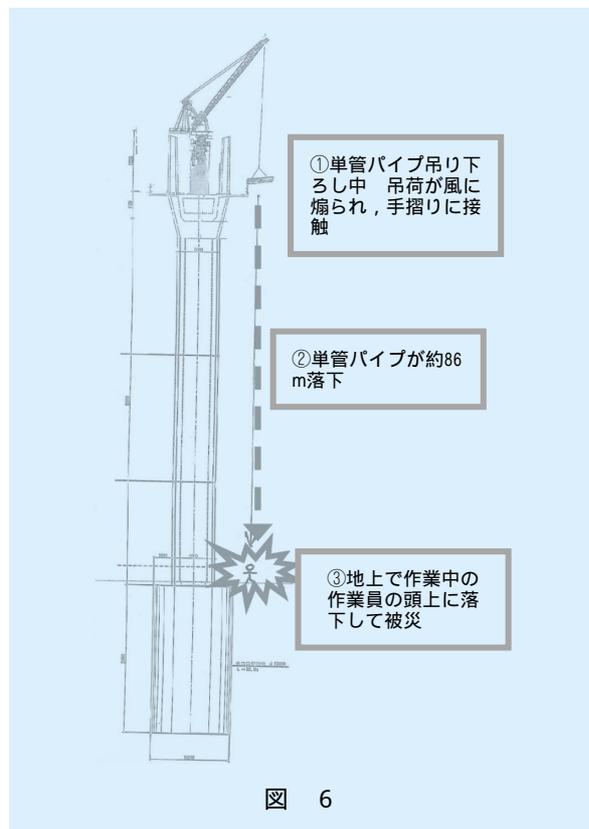


写真 5

崩して落下し、地上で吊荷を受ける作業員の頭上にあたり死亡したもの（図 6，写真 5）。

② 事故発生原因（調査中のため現時点の推測）

- ・吊荷を結束させていなかったため。
- ・吊荷の下への立入禁止が不徹底であったため。
- ・タワークレーン操作ミス。など

## 4. 工事事務事故防止の取り組み

(1) 平成22年度の重点的安全対策の策定

平成21年度の工事事務事故の発生状況を踏まえ、工事事務事故対策のより一層の徹底を図るために定めている。管内各事務所および関係業団体に通知し、現場へ周知してもらうことで工事事務事故安全対策の向上に努めている（図 7）。

① 発注者の主な実施事項

- ・工事請負者への重点対策の徹底・注意喚起。
- ・重点的安全対策の遵守不足により発生した工事事務事故への措置（口頭厳重注意または文書厳重注意の措置影響期間を1.5倍としている）。
- ・工事事務事故防止に対する費用の適切な計上。

② 請負者の主な実施事項

- ・重点的安全対策の具体的な実施方法を施工計画書に明記。
- ・元請負者からオペレータ・作業員への直接指導を徹底。
- ・現地条件 工事内容に応じた適切な人員を配置。
- ・連続して事故が発生している会社は、社内の安全管理体制を見直し、安全施工が実施できる環

架空線等の損傷事故防止

- ・【目印表示等の設置，現地確認】
- ・【適切な誘導】
- ・【アーム・荷台は下げて移動】

通行者への損害事故防止

- ・【適切な交通誘導】

飛散物による損害事故防止

- ・【除草作業時の飛石等の飛散防止対策】

建設機械の稼働に関連した人身事故防止

- ・【建設機械の作業半径内立入禁止】
- ・【オペレータ・誘導員の連携】

足場・法面等からの墜落事故防止

- ・【作業員に対する作業方法および順序の周知】

図 7

境を整える。

- ・作業員のヒューマンエラーによる事故防止のため、安全教育を強化徹底。

(2) 工事事務事故防止強化月間（毎年11月）

工事稼働現場が多くなる毎年11月を工事事務事故防止強化月間とし、各事務所にて安全協議会、安全パトロールの実施を行い、安全意識を高め、事故防止を行っている。

(3) 工事事務事故に対する下請負人への措置

工事事務事故を発生させた場合において、下請負人に責があることが明らかである場合には、下請負人に対しても厳しい措置をすることとしている。

## 5. 表彰制度

### （安全管理優良請負者表彰）

関東地方整備局では、安全対策の向上および円滑な事業の推進に資するため、施工実績工事において安全管理が優秀な請負者には、表彰を与えている。

この安全管理優良請負者表彰は、過去3年度間の累計完成工事量が3件以上かつ請負額の合計が5億円以上の実績があり、安全対策において他の模範となる請負者に表彰している。この表彰を受けた請負者には、工事入札参加時の総合評価において配点が5点加算される（平成21年度表彰社数はアスファルト舗装工事7社、一般土木工事76社）。

## 6. おわりに

ここ数年、工事事務事故件数は減少傾向であるが、なお死亡事故が発生している状況であり、安全対策のより一層の向上が求められる。

毎月、関東地方整備局のホームページに、管内で発生した工事事務事故の概要および原因を「工事事務事故事例」として公表している。事務所安全協議会や社内安全教育の資料として活用することで、発注者、請負者ともに安全に対する意識を高め、今後も事故防止に努めていきたいと考えている。